

正常な呼吸と循環はあるが、反応がない場合に回復体位をとる。人工呼吸や胸骨圧迫が必要なと+A1きに行ってはならない。

### 初版第1刷(2007.2.1発行)→第3刷(2007.6.10発行)の修正点

項数	行数	第1刷の記述	第3刷の修正点
中表紙	下から16行目	ムービー撮影:特定非営利活動法人大阪ライフサポート協会	ムービー制作:特定非営利活動法人 大阪ライフサポート協会 ムービー撮影:松原大祐/松本吉正(株式会社ニューメディアランドマツバラ)
9右	2-6 5行目	食道・気管コンピチューブ、ラリゲラルマスク、ラリゲアルチューブの場合、適切な換気が可能なら非同期で換気してよいことになった。	食道・気管コンピチューブ、ラリゲアルマスク、ラリゲアルチューブの場合、適切な換気が可能なら非同期で換気してよいことになった。
11左	2-9 4行目	電気ショック後に心電図や循環を調べない理由は前述の理由に加え、電気ショック成功例でもただちに脈が触れるのは1割しかないという事実に基づいている。	電気ショック後に心電図や循環を調べない理由は前述の理由に加え、電気ショックに成功し脈が出現した例でもただちに脈が触れるのは1割しかないという事実に基づいている。
28左	図2 原因の検索	低酸素症 循環血液量不足 低/高カリウム血症/電解質代謝異常 低体温 緊張性気胸 心タンポナーデ 薬物・毒物中毒 心筋梗塞・肺塞栓	低酸素症 循環血液量の減少 低/高カリウム血症/電解質代謝障害 低体温 緊張性気胸 心タンポナーデ 急性中毒 急性冠症候群, 肺血栓塞栓症
42	表1 鼻咽頭の選択基準	歯や歯肉のない傷病者でBVM換気がうまくできない場合、鼻腔換気用として挿入	歯や歯肉のない傷病者でBVM換気がうまくできない場合、
86	図1 小児の救命の連鎖	3つめの輪が一次救命処置(BLS)となっている	一次救命処置(BLS)を迅速な心肺蘇生に変更。 左から3つめまでの輪を一次救命処置(BLS)とする。
88右	下から3行目	現時点では、この日本語版はまだ輸入されていないので、われわれは、日本語化したものを開発し輸入を検討している。	残念ながら現時点では、この日本語版はまだ輸入されていない。
90右	3 1行目	無呼吸(10/分以下の場合も含める)、あえぎ呼吸の場合は、人工呼吸を2回行う。ただし、乳児であえぎ呼吸が出ることはまれである	無呼吸、死戦期呼吸、呼吸数10/分未満の徐呼吸の場合は、人工呼吸を2回行う。このような徐呼吸は人工呼吸が必要だが、心停止とは扱わない。なお、乳児であえぎ呼吸が出ることはまれである。
94右	3 4行目	やり直しにかかる時間は10秒以内で、胸骨圧迫の開始が遅れないようにする。	人工呼吸に費やす時間が合計10秒以内となるように注意しつつ、数回のやり直しを試みてもよい。
98右	3 1行目	正常な呼吸と循環はあるが、反応がない場合に回復体位をとる。人工呼吸や胸骨圧迫が必要なときに行ってはならない。	正常な呼吸と循環はあるが、反応がなく、やむを得ず現場を離れる場合などは、外傷の可能性が、なければ回復体位をとってもよい。人工呼吸や胸骨圧迫が必要なときに行ってはならない。